

公務災害防止事業の推進

▶ 安全管理セミナーを実施して ◀

京都市左京消防団

1. はじめに

京都市の北東部に位置する左京区は、人口は約168,000人、面積は約247km²で、南北に長く、東は滋賀県大津市に接し、南は三条通を挟んで東山区、山科区に、北は南丹市、滋賀県高島市に接している。区南部には川端通、東大路通、白川通などの通りが南北に走っています。

また、区域の岡崎公園一带には美術館やロームシアター京都、地下鉄北山駅付近には京都府立植物園、宝ヶ池付近には国立京都国際会館、東には京都大学をはじめ6つの大学があるなど、文化・学術に関連する施設も多く有しています。

さらに、東山慈照寺(銀閣寺)・南禅寺・賀茂御祖神社(下鴨神社)・平安神宮、北部には鞍馬寺・貴船神社・三千院・修学院離宮などの国宝、重要文化財、世界文化遺産に登録されている社寺を有するとともに、大文字の送り火、花背・久多・広河原の松上げ、鞍馬の火祭などの伝統行事も多い、緑あふれる町です。



賀茂御祖神社(下鴨神社)



貴船の川床

2. 消防団の概要

京都市左京消防団は、昭和23年3月7日に「京都市加茂消防団」として発足し、昭和25年4月1日に「京都市左京消防団」と改称し現在に至っています。

平成31年3月1日現在、団本部と29分団(機能別分団である応急救護分団及び機甲分団を含む)、団員数の定員695名に対し、697名(充足率100.3%)で構成されており、公設消防隊の到着に相当時間を要する北部山間地域を管轄する分団には、小型動力ポンプ付積載車10台を配置し、広大な管轄区域を抱えながら、地域防災の要として、火災をはじめ風水害等に対応するとともに、普段の予防広報活動などに尽力し、左京区民の命と暮らしを守っています。

3. 安全管理セミナーの開催経緯

これまで京都市左京消防団では、消防団員の安全確保を目的として、隔年で公務災害防止研

修を受講していましたが、今年度は、災害現場における安全管理などを学習するため、安全管理の基礎講座である「安全管理セミナー」を幹部教育として位置づけ、消防団員等公務災害補償等共済基金から講師を派遣していただき安全管理セミナーを実施しました。

4. 安全管理セミナーを実施して

平成31年3月2日(土)、「京都市勧業館みやこめっせ」の大会議室において、消防団員等公務災害補償等共済基金から京都市消防局OBの森方指導員をお招きし、消防団長以下97名の消防団員が、1時間半コースの安全管理セミナーを実施しました。

研修では、冒頭、講師の方から全国の公務災害発生状況について、災害現場よりも訓練中の事故や負傷が多く発生していることをお教えいただきました。また、事故の予防策として毎年健康診断を受診し「健康な体づくり」に努めることの重要性を学びました。続いて、「訓練時のヘルス・チェックシート」を用いて、訓練前・訓練中の健康チェック事項や訓練時の禁止事項

等について学んだ後、事例を用いて「S-KYT・4つのラウンド」について、そのねらいを解説していただきました。

最後に、安全で誤りのない活動を進めていくための確認行動である「指差し呼称」や全員でスローガンを唱和して一体感や連帯感が高まっていることを実感しました。

5. 今後の取組

今回の研修を通じて、消防団員として災害現場活動を実施していくうえで、安全管理の具体的な留意点について再確認することができ、とても有意義な研修であったと思います。

京都市左京消防団では、今回受講できなかった消防団員にも、研修内容を各分団においてフィードバックを行い、京都市左京消防団全体で安全管理意識の更なる向上に努めていきたいと思っています。

最後に、今回の研修の開催にあたり、指導をしていただいた講師の森方様をはじめ、消防団員公務災害補償等共済基金の皆様方に心から厚く御礼申し上げます。



指差し唱和の様子



京都市左京消防団 山本団長挨拶